

## 2020 年度経済地理学会名誉会員候補者

矢田俊文会員

### 名誉会員推薦理由

矢田俊文会員は、戦後日本の経済地理学界の発展に多大な貢献を果たした「地域構造論」の創始者であるとともに、経済地理学のみならず地域経済学、地域政策学のいずれにおいても代表的な研究者である。その多大な研究業績について著作集の4つの巻（『地域構造論』『石炭産業論』『国土政策論』『公立大学論』）に基づいて整理すると以下のとおりである。

第一は、多大な研究業績の中軸であり、戦後日本の経済地理学の発展と体系化に多大な影響を与えた『地域構造論』に関する研究である。地域構造論は、国民経済的視点に立って地域的分業体系を明らかにする新しい経済地理学の方向性を示した。そして、その体系化である単著『産業配置と地域構造』（大明堂、1982年）をはじめ、学界に広く理論的・実証的に優れた研究成果を多数もたらし、戦後日本の経済地理学の発展に大きく貢献した。

第二は、石炭産業に関する研究（『石炭産業論』）である。地質学と経済学の境界分野に焦点をあてて日本の石炭産業の資源放棄の実証分析を行った『戦後日本の石炭産業—その崩壊と資源の放棄—』（新評論、1975年）は、優れた研究として注目を集めた。

第三は、国土政策・地域政策に関する研究（『国土政策論』）である。同会員は、国土審議会委員（1998-2008年）をはじめ中央省庁・地方自治体において多数の各種委員に就任し、研究者の視点から政策形成に積極的に関与するとともに政策の検証を行った。これらの取り組みは、単著『国土政策と地域政策—21世紀の国土政策を模索する—』（大明堂、1996年）、単著『21世紀の国土構造と国土政策—21世紀の国土のグランドデザイン・考—』（大明堂、1999年）等として取りまとめられ、地理学における政策研究の発展に多大な貢献をなした。

第四は、大学改革に関する研究（『公立大学論』）である。同会員は、九州大学副学長・北九州市立大学長として大学運営に携わり、新しい大学の姿を模索し続けた。単著『北九州市立大学改革物語—地域主権の時代をリードする—』（九州大学出版会、2010年）は、地域と大学の新たな関係性や大学改革のあり方について多くの示唆を与えた。

同会員は、1941年新潟県生まれであり、東京大学大学院理学系研究科博士課程単位取得退学、法政大学経済学部助手、専任講師、助教授、教授を経て、九州大学経済学部教授、評議員、学長特別補佐、副学長を歴任し、北九州市立大学学長を務めた。また九州大学名誉教授、北九州市立大学名誉教授の称号を授与されている。本学会には1966年入会、1969～1984年度：幹事（7期）、1985～1999年度：評議員（5期）、1997～2003年度：西南支部長（3期）、2000～2005年度：会長（3期）を務めるなど学会の発展に大きく貢献した。

以上のように、矢田俊文会員による長年の学界・学会活動への貢献・功績は名誉会員にふさわしいものであり、ここに名誉会員として推薦する。

### 名誉会員推薦委員会

松原 宏（委員長）、伊藤健司、鋤塚賢太郎、近藤章夫、末吉健治、土屋 純、根岸裕孝、宮地忠幸